

平成27年度 年度末学校評価書〈評価結果及び改善方策〉

【評価基準】 A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満

項目	重点目標	評価指標及び目標値（期待される姿）	評価	考察<◇>及び改善方策<◆>	評価資料	達成率	
1 教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上に努める。	① 児童の学習意欲を高め、知識・技能を活用する力を育成する指導方法を工夫し、分かる授業づくりに努めているか。 ＜目標値＞ 教職員・児童・保護者の90%以上が肯定	B	◇ 補充プリントを中心に学力改善に取り組んできたが、学力差の大きい学年がある。どの学年も熱心に学習に取り組み、短い期間では、理解したことを記憶できている。 ◆ 理解したことがしっかり身に付くよう指導を重ねたい。2学期には補充学習時間を確保して指導にあたりたい。	教職員アンケート	86	
			B	◇ 保護者の評価が下がっている。学習内容も難しくなる2学期だったが、個人に対応しきれていない現状があった。 ◆ 個人をつまづいている点の改善を図っていききたい。支援員とも協力してきめ細かい指導を心掛けたい。	教職員アンケート	86	
		② 基礎・基本の定着をめざし、学習意欲の向上を図っているか。 ＜目標値＞ 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	B	◇ 学習プリント、フラッシュカードを活用し、基礎・基本を押さえた授業を実践してきた。業間に計算や漢字の書取、作文にも取り組んできた。保護者の中に基礎・基本の更なる充実を希望する声がある。 ◆ 個人の学習の不十分な点はどこか分析を行い、補充学習時に繰り返し指導を行いたい。	教職員アンケート	88	
			B	◇ ドリル学習や基本的な学習に取り組んできたが、まだ基本的なことが定着していない児童がいる。県の定着度テストを見て分かる通り、全体的な底上げは少してきた。 ◆ 粘り強く、繰り返しの指導をしていききたい。短期的な記憶や理解をしっかり長く定着でき、学力となるよう指導を重ねたい。	教職員アンケート	86	
		③ 家庭学習（低学年30分、中学年40分、高学年60分）や学習への準備の習慣が身に付いているか。 ＜目標値＞ 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	B	◇ 保護者の評価が厳しいが、家庭学習の内容面にも目を向ける保護者が増えている。自主学習を積極的に行う学年もある。 ◆ 自主学習ノートの紹介を全校で行うなど、児童の主体的な学習を推進したい。	教職員アンケート	75	
			B	◇ 1学期同様、保護者の評価は厳しいが、学習時間、内容とも向上が見られる。 ◆ 家庭学習として、宿題プラス自主学習に取り組む姿勢を広めていききたい。	教職員アンケート	82	
						児童アンケート	96
						保護者アンケート	83
						児童アンケート	99
						保護者アンケート	75
						児童アンケート	96
						保護者アンケート	74
				児童アンケート	94		
				保護者アンケート	75		
				児童アンケート	87		
				保護者アンケート	70		
				児童アンケート	92		
				保護者アンケート	71		

項目	重点目標	評価指標及び目標値（期待される姿）	評価	考察<◇>及び改善方策<◆>	評価資料	達成率
1 教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上に努める。	④ 全教育活動を通して、文章や資料を読んだり、自分の意見を述べたり書いたりする機会を充実させ、読解力や表現力の向上に努めているか。 <目標値> 教職員の80%以上が「積極的に取り組んでいる」と回答	A	◇ 週1回の計算、漢字、長文等の取組の積み重ねで、各自の力の伸長が定着度確認テスト等で見られる。学校行事の感想を述べる場面でも内容のあるものが多くなり、積極的な場の設定が効果に結びついている。 ◆ ドリル等の取組について児童の到達状況を確認し、1段上の目標を目指させたい。また作文力向上をねらい、NIEの学習も続けていきたい。	教職員アンケート	83
			A	◇ 新聞を読み、まとめ考える力を養ってきた。しかしまだ書けない児童が多くいる。意見を述べることについては、しっかりできている。 ◆ 引き続き、語彙の充実、よい文章の視写、読解の指導、長文のドリルと併せて取り組みたい。	教職員アンケート	82
	学校関係者 評価員所見	・学校行事を見ていると、全員が挙手をし、最後まで内容のある意見が言える。 ・学年が進むにつれ、学力差も大きくなっていくのではないだろうか。個人差に応じた指導を行っていると思うが、続けてほしい。	学校の対応	・発表力向上のため、引き続き発表の場の設定を行っていききたい。同時に文章の視写、読解の指導に取り組んでいきたい。 ・放課後の時間を活用して、補充学習を続けていきたい。		

項目	重点目標	評価指標及び目標値（期待される姿）	評価	考察<◇>及び改善方策<◆>	評価資料	達成率
2 生徒指導	一人一人を生かす生徒指導の徹底と健全育成に努める。	⑤ 児童理解や相談体制を整備し、家庭や地域、関係機関と連携しながら、児童一人一人に応じた生徒指導に努めているか。 <目標値> 全教職員が努力した	B	◇ 日記、学校生活で児童理解に努めてきた。高学年の人間関係で難しい点があった。 ◆ 引き続き、子どもを見つめる会や教育相談等を通して、全教職員で児童の共通理解を図り、対応をしていく。	教職員アンケート	93
			B	◇ 休み時間の児童との話やアンケート等で一人一人の様子を把握し、必要に応じて指導を行ってきた。 ◆ 今後も継続的に一人一人の児童を見つめていき、素早い指導を心掛けたい。	教職員アンケート	84
		⑥ 家庭や地域との行動連携を図り、あいさつや言葉遣い、早寝早起き朝ごはん、後始末を軸とした基本的な生活習慣の確立に努めているか。 <目標値> 教職員・児童・保護者・地域住民90%以上が肯定	B	◇ あいさつや返事など、全校的にまだまだである。児童と保護者の間に大きな評価の違いがある。 ◆ 粘り強く毎日のあいさつ、返事の指導に取り組んでいきたい。	教職員アンケート	86
			B	◇ 健康観察や終わりの会等で、よい生活習慣の確立の必要性について指導をしてきた。あいさつは全般にできているようだが、地域の方から「こちらが声をかけてもあいさつできない児童がいる。」との御意見があった。まだまだ指導不足の現状がある。 ◆ いつでもどこでもあいさつができる児童になるよう、あらゆる場を通して、日頃から教職員全体で取り組んでいきたい。	児童アンケート	96
					保護者アンケート	76
					地域住民アンケート	98
		⑦ いじめや非行を許さず、人を思いやる心で友達と心を通わせ、自他の生命を大切にす指導の充実を図っているか。 <目標値> 教職員・児童・保護者の80%以上が肯定	A	◇ 小さなトラブルはあったが、機会をみて声をかけ、話を聞き、次の行動を話し合うようにしてきた。保護者は更なる指導の充実を期待している。 ◆ いじめや非行を見逃さず、機会をとらえた指導を継続していきたい。そのためにも家庭との密な連携をしていきたい。	教職員アンケート	84
					児童アンケート	92
					保護者アンケート	72
			B	◇ きつい言葉の応酬やいたすらで困っているケースが報告された。正直な気持ちが児童の中から出たり、保護者の率直な意見が出されたりしている。素早く問題が発見された時点で指導する体制はできている。 ◆ 今後も普段の学校生活の観察や児童との会話、生活アンケート等、広く情報のアンテナを張り、問題への迅速な対応・指導をしていきたい。	地域住民アンケート	97
					教職員アンケート	86
					児童アンケート	96
保護者アンケート	81					
教職員アンケート	75					
児童アンケート	94					
保護者アンケート	78					

項目	重点目標	評価指標及び目標値（期待される姿）	評価	考察<◇>及び改善方策<◆>	評価資料	達成率
2 生徒 指導	<p>一人一人を生かす生徒指導の徹底と健全育成に努める。</p> <p>学校関係者 評価員所見</p>	<p>③ 情報社会に主体的に対応できる能力や態度を身に付ける指導に、積極的に取り組んでいるか。 <目標値> 全教職員が取り組んだ</p> <p>・学校や保護者のアンケートでの評価は高くないが、全般的に気持ちのよいあいさつができていると思う。</p> <p>・自転車の乗り方については、ヘルメットをしっかりとかぶり、一列で安全な通行ができています。</p> <p>・朝の集団登校のおり、遅れている児童のために待たされている状況があった。児童の保護者間の連絡を密にとる必要がある。</p> <p>・登校班の班長さんはしっかりしており、大型トラックなどが通る際は、きちっと指示を出し、安全に登校している様子が見られた。</p> <p>・一人一人を見つめ、学習面、生活面の指導をしてもらっているが、ストレスを抱えた児童もいることであろう。一人一人がゆとりをもつことも必要である。</p>	C	<p>◇ ライン等、個人の細部にわたる実態把握、指導が難しいが、児童・家庭との連絡を密にしながら対応してきた。</p> <p>◆ インターネット、携帯の危険性について児童・保護者にしっかり伝えていきたい。</p>	教職員アンケート	79
			B	<p>◇ 携帯会社の人を招いて親子での研修会をもった。有意義な取組だったと考える。今後、低学年にまで携帯使用の指導が必要だと考えられる。</p> <p>◆ まず、携帯を所持しない指導を徹底させたい。どうしても使用する場合の携帯の正しく安全な使用方法について指導を続けていきたい。</p>	教職員アンケート	81
				<p>・登下校時、学校内、地域等、あらゆる場を通して、いつでもどこでもあいさつできる児童を育てたい。</p> <p>・児童の目線に立ち、通学路、地域内、学校内の安全について点検していきたい。</p> <p>・集団登校の児童が定時に出発できるよう、再度、各家庭に連絡したい。</p> <p>・教職員が複数の目で児童を見つめ、厳しい指導、受け止める指導、硬軟取り混ぜ、場面に合った指導をしていきたい。</p>		
			学校の対応			

項目	重点目標	評価指標及び目標値（期待される姿）	評価	考察<<>及び改善方策<<◆>	評価資料	達成率	
3 健康・安全	体力向上を軸とした健康・安全教育の推進に努める。	⑨ 自ら進んで運動に親しみ、体力向上を目指してITスタジアムに積極的に参加し、自らの健康を適切に管理できる生活習慣が育成できているか。 <目標値> 教職員・児童・保護者の90%以上が設定	B	◇ ITスタジアムはなかなか取り組みなかったが、みきゃん体操に取り組んだり、放課後の水泳練習に参加したりするなど、運動することが学校生活の中で定着している。 ◆ 児童が運動できる時間と場の確保を2学期も続けていきたい。	教職員アンケート 86 児童アンケート 99 保護者アンケート 83		
			B	◇ 長縄跳びを中心に運動に親しみ、目標をもって業間や休憩時間に取り組んできた。体育科では、マラソンに粘り強く取り組んでいる。 ◆ 今後も各運動の目標を掲げ、季節に応じた運動に親しめる環境を整備していきたい。	教職員アンケート 94 児童アンケート 97 保護者アンケート 83		
			B	◇ 砂防学習をはじめ、防災について地域の人々と学び合うことができた。しかし、保護者は児童の危機に対応する力がまだ弱いとの認識がある。 ◆ いのちの日を中心として、地域や保護者と連携した避難訓練や登校時、下校時の避難についても考えていきたい。	教職員アンケート 93 児童アンケート 99 地域住民アンケート 98 保護者アンケート 79		
			B	◇ いのちの日の学習を中心にして、児童には防災意識が高まっている。また地域とともに津波被害防止支援事業に参加したこともよい経験となった。登校時の津波避難訓練も行い、様々な場合を想定した訓練ができた。防災マップコンテストで文部科学大臣賞を受けたことも児童の大きな励みになった。 ◆ 今後も多くの学習機会を作り、生きた防災学習を取り入れていきたい。	教職員アンケート 100 児童アンケート 100 地域住民アンケート 95 保護者アンケート 79		
			B	◇ 保護者、地域の方々に協力していただいているが、その数が少なくなっている実態がある。 ◆ 今後も保護者や地域の方々のご意見を伺い、児童の安全な登下校、地域での過ごし方について指導していきたい。学校からの呼びかけをもっと行っていきたい。	教職員アンケート 82 保護者アンケート 84 地域住民アンケート 91		
			B	◇ 登下校時を中心に地域の方々や保護者に見守っていただいている。 ◆ 見守り隊との顔合わせ会の他、一緒にできる活動を考えていきたい。	教職員アンケート 88 保護者アンケート 85 地域住民アンケート 91		
		学校関係者 評価員所見	・かなり、しっかり防災教育に取り組んでいると思う。児童の防災意識も高いのではないだろうか。 ・南予津波被害防止支援事業では、地域、保護者、児童が一体となったよい学習を行ったが、まだ防災意識の薄い方々もいるのではないだろうか。想定が悲惨過ぎるのか、避難をあきらめている方もおられた。地域でも全員が避難するよう学習を重ねたい。	学校の 対応	・津波などの災害から、ただマニュアル通りに避難するのではなく、場面により自分で適切な選択・判断ができる児童になるように育てたい。様々なケースを想定した訓練を行っており、その都度、児童に考えさせることを重視していきたい。		

項目	重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価	考察<◇>及び改善方策<◆>	評価資料	達成率	
4 保護者・地域との連携	地域資源を活用し、地域と連携した学校運営を推進する。	⑫ 地域学習に積極的に取り組み、東海地区を思う心が育っているか。 <目標値> 教職員・児童の90%以上が肯定	B	◇ 総合的な学習の時間等を活用して、東海地区のことを考える学習ができた。地域の方々の協力も大きい。幼保、高齢者との交流も動き出してきた。 ◆ 地域は大きな教室であるとの考えのもと、地域との絆を大切に活動を行っていききたい。	教職員アンケート	86	
			A	◇ ぎょしょく体験等でいろいろな人にお世話になり、教育効果が大きかった。地域とともに学ぶ機会が多くもて、その場で育つ力を感じる。 ◆ 引き続き、地域の方々に感謝の心をもちながら学習を続けていきたい。	教職員アンケート	94	
		⑬ ふるさと学習を進めるにあたり、地域や関係諸団体と連携、協力態勢の充実に努めているか。 <目標値> 教職員・保護者・地域住民の90%以上が肯定	B	◇ 児童の声での案内放送が好評であった。地域や保育園、老人ホーム等諸団体との交流がもて、体験・交流から学ぶことは多かった。 ◆ 引き続き、地域や諸団体の方々のお話をよく伺い、実のあるふるさと学習を進めていきたい。	教職員アンケート	88	
			B	◇ 2学期もバラの世話、防災、グランドゴルフ、自在園との交流など、地域の方々に見守られながら学習してきた。 ◆ 今後も地域や関係団体と連携・協力をしていきたい。	保護者アンケート	88	
		学校関係者 評価員所見	・地域の中での学習がますます盛んになっているのは大変いいことだと考える。自在園、宇佐水産、澤近豆腐店、環境衛生センター、浄水場等、児童の社会性を養うだけでなく、児童の将来の仕事を考える点でも重要な学習機会である。	学校の対応	・今後も今以上に地域の学習素材を調査し、地域の人材活用を行い、生きた学習に取り組んでいきたい。	地域住民アンケート	90
						教職員アンケート	89
						保護者アンケート	82
						地域住民アンケート	92
		全体を通して	・地域の中で子どもたちが活動しているのを見ることで、地域の皆が生き生きとしてくる。今後も地域を活用した学習を続けてほしい。 ・学校全体で一人一人の児童を見つめ、育てていく体制ができていると考える。今後も続けていってほしい。 ・地域・保護者のアンケートには、厳しい意見もあるが、地域・保護者の願いが込められている。東海小への期待が感じられる。 ・防災に対する取組はすばらしい。地域にも広がっている。	学校の対応	・年度当初にしっかり年間の活動計画を立て、充実した活動になるようにしていきたい。 ・学校生活アンケート、日記、学校生活、児童を見つめる会などで児童の学習面、生活面の問題を話し合い、指導してきた。しかし教育相談の機会はあまり取れなかったため、担任だけでなく、いろいろな先生と児童が相談する機会を設けたい。 ・アンケート達成率の十分でなかった事項(あいさつ、返事、家庭学習等)について具体的な方策を考え、教職員の共通理解をもって改善を図りたい。		